

ほけんだより

平成 28 年 2 月 19 日
長崎大学教育学部附属幼稚園
養護教諭 森山千穂

今週は年少、年中の子ども会も終わり、いよいよ3月も近づいてきています。今年の冬は気温も例年とは違い、気温差が激しく、咳がひどくてお休みの人や先週からインフルエンザのA型もまたちらほら出て、今週は年長で3名位の人がA型でお休みでした。

インフルエンザの診断をされた子どもたちの中には、「前日は39℃以上の熱があったが、翌朝は37℃ちょっとに下がった」「熱がそれほど高くなかった」とすぐに下がった」「予防接種をしていたからかわりと元気で食欲もあった」ということも保護者の方に聞いております。高熱ではなかったら、ただの風邪かな?と思いがちですが、この時期ですので、一度受診をされますようお願いいたします。

春はまだまだ先ですが、大きな流行もなく、みんな元気に登園してほしいと思います。



子どもと「ロコモティブシンドローム」

「ロコモティブシンドローム（ロコモ：運動器症候群）」は運動器の機能が衰えることで日常の基本的な動作である歩く、立つなどの移動機能が低下した状態をいい、進行すると介護が必要となるリスクが高くなります。これは、高齢者の問題と思われませんが、子どもの頃からの運動習慣も密接に関わってくるようです。現代の子どもたちは昔とは違う生活環境や生活習慣、運動習慣からも体力の低下だけではなく、運動器に変化が起きています。将来のロコモ予防のためにも、学童期からの運動器検診の必要性が示唆されているところです。

定期健康診断について（お知らせ）

平成 26 年 4 月の学校保健安全法施行規則の一部改正等にもない、平成 28 年度より検査項目等が変わります。座高の検査や寄生虫卵検査が必須項目から削除され、新たに運動器検診が入ってきています。

来年度の 4 月から 6 月にかけてまた幼稚園でも健康診断を実施しますが、座高の検査は削除、寄生虫卵検査は長崎市内の小中学校が実施することをうけ、附属校園で検討した結果、実施することになりました。検査結果次第で、再来年以降の実施を検討する予定です。



さて、運動器検診についてですが、この検査項目は、脊柱・胸郭・四肢の状態です。まず、健康診断前に保健調査票において調べますが、幼稚園児の実態、発達・成長時期から考えて、保健調査の設問内容を園医である大学病院小児科の岡田先生にも相談をさせていただき、検討しました。小中学校と同じ内容の項目にすると御家庭でも記入に戸惑われたり、難しい面もあつたりするかと思います。日常生活面や発達・発達面から気になる様子がある場合はお知らせいただき、まず、内科検診で診ていただきます。さらに内科検診で詳しい検査が必要な場合は、小中学校の整形外科検診に二次検診としてつなぐようにしています。参考までに、小中学校の保健調査票の例として挙げられているものを裏面に載せておりますので御覧ください。（年長の保護者の方は、入学後、小学校でこのような調査票に答えてもらうことになると思います。）



なお、幼稚園の保健調査票におきましては、新しい調査票に作り替え、脊柱・胸郭・四肢の状態についての設問項目を2つほど加えております。

園でも日頃から子どもたちの様子を観察しておきたいと思います。